

HKFA Technical Report 2019

第34回日本クラブユースサッカー選手権 (U-15) 大会北海道大会

日時
2019年6月15日 (土) ~
7月7日 (日) 決勝戦

会場
夕張サングリン
スポーツヴィレッジ
(夕張平和運動公園)

決勝戦

北海道 コンサ ドーレ札 幌U-15	(1-1) (0-2) 1-3	スプレッ ド・イー グルFC 函館
-----------------------------	-----------------------	----------------------------

大会ベスト8

北海道コンサドーレ札幌U-15
DOHTO Jrユース
アプリーレ札幌U-15
SSSジュニアユース
スプレッド・イーグルFC函館
アンフィニ・MAKI.FC
クラブフィールズU-15
北海道コンサドーレ旭川U-15

HKFA TSG member

宮永 裕教 (TSGチーフ)
小林 俊也 (一貫指導)
池田 裕哉 (GKプロジェクト)
安田 秀憲 (U-12)
小川原 周太 (U-14)



1 大会の概要

今大会の準決勝進出チームは、北海道カブスリーグの上位チームとなっていることもあり、実力のある2チームが決勝に残ったと思います。今年の全体的な試合の特徴としては、まとまりのあるチームが多く、逆に飛び抜けた特徴のある選手が少ないように感じています。

今年も2チームが日本クラブユース選手権に出場し、7チームがインターシティーカップEASTに出場することになりますが、再来年度以降は未定の部分もあります。それぞれの全国大会に出場するチームの健闘を期待したいです。(大会主催者)

2 両チームへのインタビュー

年間を通してコンサドーレのスタイルを積み上げてきました。決勝戦だからといって、特に特別なことをするということはありません。この決勝戦においても、いつも通り自分たちのスタイルを貫き、優勝を勝ち取りたいと思います。(北海道コンサドーレ札幌U-15監督 柴田慎吾氏)

ベスト16からのたたかいは、とてもシビアだったと思いますが、この代表決定戦に向けてトレーニングを重ねてきました。

カブスリーグで普段からたたかっているチームが多いので、ある程度ストロングポイントは踏まえた上でここまでたたかってこれたかな、と思います。特にこのトーナメントに向けては、セットプレーを中心にトレーニングしてきました。また、レスタの選手の起用法、時間も含めてこだわってきました。

決勝まで進むことができたのは、選手のフィジカルレベルが高いということと、サッカーを中心にしてものごとを考え、日常生活を送ってきたことが大きいと思います。全国大会進出は決まりましたが、北海道の代表となる意識を高くもって臨みたいと思います。

(スプレッド・イーグルFC函館 阿部修士氏)



3 内容

お互いに1-4-4-2のシステムでスタートした。スプレッド・イーグルは同システムでマッチアップさせる選手を作り、前線からプレスをかけて高い位置でボールを奪い、そこから縦に早い攻撃を仕掛けようとしていた。

それに対してコンサドーレ札幌は相手ディフェンスの最終ラインの背後を突きながらも、ボールを保持しビルドアップ、ポゼッションを丁寧に行い、相手ゴールを奪おうとしていた。

4 決勝戦における対戦チームの特徴

《北海道コンサドーレ札幌U-15》

ディフェンスラインからボールを丁寧につなぎ、相手守備ブロックを崩そうとする攻撃を試みていた。一方で、ペナルティエリア付近では、決定機に持ち込むことができない時間帯が長く続いていた。

前半は、2トップが相手DFの背後を突く攻撃によって、相手の守備ラインが間延びすると、相手選手や3ラインの間にポジションをとりながらボールを運び、効果的な攻撃につなげていた。

後半ではコンパクトになった相手の守備の修正に対して、ミスが目立つようになり、ディフェンダーの反応の遅れから相手FWに優位に立たれ、失点をする場面が見られた。

《スプレッド・イーグルFC函館》

ミドルサード、もしくはより高い位置での守備が機能したときに、攻撃のチャンスが生まれていた。一方で、相手の2トップの背後を狙う攻撃により、ディフェンスラインが下げられてしまったときに全体が間延びし、守備が機能しにくくなる時間帯があった。（攻撃もサポートの距離があるため、2トップのみのカウンターとなっていた。）

後半に入り、3ラインの距離感が保たれ、守備のバランスが良くなったことから、ボールを意図的に奪う場面が多く作ることができ、決定機を作ることができていた。



5 GKのプレー

どちらのチームのGKもボール状況やゲーム状況に応じて常に良いポジションを取り続けていた。

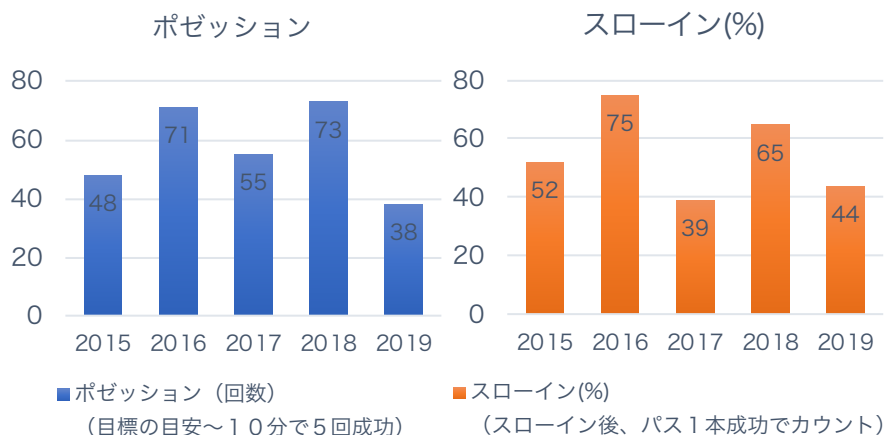
シュートストップでは決定機を防ぐ場面もあり、またブレイクアウェイでもゴール前を広く守る意識をし、ボールを奪う場面もあった。しかし、自陣にボールが近づくにつれて、ボールウォッチャーになってしまい、ボールがない場所への、リスクマネジメントがおろそかになる場面があった。

また、サイドからの攻撃に対し、ファーサイドの選手がフリーになっている状況が何度か観られた。オフの準備『観る、分析する、予測する、判断する』の質をあげて、判断したことを味方へコーチングを行うことが課題である。

GKの積極的な攻撃への関わりという意味では非常に意識が高かった。ボールをキャッチした後、素早く切り替え攻撃に移行していた場面が幾度となくあり、前線からプレッシャーのある中で、優先順位を考え、質の高いボールを供給していた。

一方で、ゴールキックやフリーキックのロングパスの成功率が低くボールを失う場面は多かった。GKからゴールキックやフリーキックで長いボールを蹴る時の味方との連携と、キック（パス）の成功率を上げていくことが課題である。





ボール保持をしている時間が長いコンサドーレ札幌に対して前からボールを奪いに行き、手数をかけずにゴールへ向かうスプレッド・イーグルという試合展開が数値にも表れた。

後半、コンサドーレ札幌は前半と同じような攻撃を繰り返しており、スプレッド・イーグルは前半よりも守備の修正に力をかけて、より高い位置でボールを奪うことに成功し、シュートする機会が増えた。

6 試合後のインタビュー

前半はよい形でパスをつなぎ、攻撃の回数も多くまずまずの立ち上がりだったと思いましたが、後半に入り、選手同士の関わりが少なくなり、パスを出した後の動きの量や質、また個人の技術を使ってボールを動かすことができなかったことは課題だと思います。

全国大会に向けてという意味では、これまでも、これからもやることは変わりません。今日の試合で出た課題は改善し、苦しい時間帯にも良いプレーができるようにしていきたいです。

(北海道コンサドーレ札幌U-15監督 柴田慎吾氏)

前半は相手のポゼッションや攻撃のアイデアに動揺しましたが、守備について、アプローチのタイミングや、ポジションの修正を選手たちが気付く、修正できました。その結果、特に後半は予測を伴う安定した守備から攻撃できる機会が増えました。今日の勝利の要因は、守備の改善にあったと思います。

攻撃面については、特に10番の選手がタイミングよく味方からボールを受けられるようになることで、チームにリズムが生まれたと思います。

全国大会に向けては、攻撃面を磨いていきたいと思います。単調なサッカーにならないよう、人とボールが動くサッカーを目指してトレーニングを重ねていきたいと思っています。

(スプレッド・イーグルFC函館 阿部修士氏)

7 まとめ



両チームともこれまで積み上げた自分たちのスタイルを貫いた決勝戦となった。前線からの守備、攻撃の崩しのアイデアという点では両チームが課題として挙げていたものの、試合の流れを読み、守備の改善によって攻撃(得点)に結びつけることができたことは、選手の意識の高さを裏付けるものであった。その質をさらに上げて全国大会でもさらなる活躍を期待したい。

最後に、空知地区サッカー協会並びにJCY連盟の皆様をはじめ、HKFA/TSGの活動にご協力いただいた各チームの関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

